



香港では世界の最新情勢が直ちに映像で伝えられ、市民たちは敏感に反応する（写真提供：香港特別行政区政府）

特集「香港は、いま」
返還11年、三たび激動に見舞われる香港

香港は5、6年周期で大きな危機に見舞われている。
香港の主権が英国から中国に移った「新生・香港」の元年1997年には、返還の直後に鳥インフルエンザが発生し、市場から全ての鶏が処分された。この年にはまた、香港を含む東アジア、東南アジア全域に金融・通貨危機が吹き荒れた。それから5年半後、2003年の香港には春から夏にかけてSARS（重症急性呼吸器症候群）の名前で世界中に知られることになった新型肺炎が発症、蔓延し、1755人が感染し、296人が死亡した。香港経済を支えてきた証券市場も、不動産相場も、旅行・観光産業も大きな打撃を受けた。旅行客が激減し、駐在員家族も帰国してしまった香港では、ホテルやビルからネオンの灯が消え、香港を象徴する100万ドルの夜景もその輝きを失った。

SARSから5年半が経過した今年2008年秋、香港は、リーマン・ブラザーズの破綻など米国発の金融危機の荒波をもろにかぶり、株式も、不動産も、通貨・香港ドルの為替レートも大揺れに揺れている。消費も輸出も落ち込み、景気は

減速の歩みを速めており、第4・四半期のGDPはマイナス成長へ落ち込むとの予測もある。しかし、さすがは香港というか、曾蔭権行政長官はただちに香港域内にある預金の全額保護など金融安定化措置を発表、香港ドル防衛のためには市場へ積極的に介入する方針を打ち出した。世界の金融センターとしての地位を守るためならレッセフェールの変貌もいとわない強い決意を内外に示したものだ。

一方、香港の政治は9月行われた立法会選挙で苦戦を伝えられた民主派が普通選挙枠で議席を1つ増やして23議席を獲得した。選挙制度改革法案の可決には全60議席の3分の2の賛成が必要で、曾蔭権政権にも中国当局の思惑に対しても、民主派の賛成なしには選挙制度改革の法案が通らない、という“歯止め”をかける形になった。



日本と香港の友好増進の架け橋をめざしてスタートした日本香港協会は今年で発足20年。機関誌「飛龍」も節目の60号を迎えました。「飛龍」60号はページ数を増やし、「香港は、いま」のテーマの下、激動する政治、経済、金融、社会など香港の最新の動きを特集しました。

（理事・広報副委員長 麻生雅一郎）

目 次

2008年12月発行

特集「香港は、いま」

「デモクラシー」から「中国の特色ある民主」へ 2

GDP、第4・四半期はマイナス成長も 3

リーマン事件とレッセフェールの変貌 4

ビクトリアシティー境界石を捜せ! 5

第9回「香港フォーラム」に日本香港協会が全国規模で参加 6・7

七夕パーティー 2008 8

アジア ユース オーケストラの日本の夏 9

ピークトラム120周年 10

再び香港企業のビジネスモデルを学ぶチャンス 11

National：日本香港協会 全国連合会発足! 12

関西日本香港協会：香港中秋節パーティ 2008 13

中京日本香港協会：長良川鶴飼雑感 14

李志清 中国画・漫画作品展を開催 14

福岡日本香港協会：日本香港協会全国連合会発足式／第9回香港フォーラム／第139回香港福岡県人会との懇親会 15

山形日本香港協会：「天地人」の主役直江兼続とは 16

北海道日本香港協会：「2008香港 札幌の物産と観光フェア」と「北海道商談会in香港2008」の開催について 17

宮城日本香港協会：香港宮城県人会の安部副会長来仙～香港「日本食」事情を語る～／広東語教室で懇親会を開催 他 18

沖縄日本香港協会：沖縄日本香港協会特別講演会 19

特集
「香港は、いま」

「デモクラシー」から「中国の特色ある民主」へ

——香港の民主化のゆくえ——

金沢大学人間社会学域国際学類アジアコース准教授
倉田 徹

過去四半世紀にわたり、香港政治の焦点の一つであり続けた民主化問題は、現在大きな転機を迎えている。返還前、香港の民主化問題は、民主化を加速させようとするイギリスに、中国が反発するという形で展開した。返還後は、「香港基本法」が定めた行政長官・立法会の普通選挙化を、いつ実行するかが焦点となったが、民主派の普通選挙実現要求に対し、中央政府は長く回答を避けつづけた。

しかし、2007年12月29日、中央政府は、2017年の行政長官普通選挙と、2020年の立法会全面普通選挙の実現を可とする決定を発表した。中央政府は初めて香港の普通選挙実現の具体的な日程を示したのである。

この決定は、「中央政府=民主化への抵抗勢力」との視角から香港政治を分析してきた観察者にとっては、不可解な突然の動きであったかも知れない。しかし、返還後、特に2003年の「7月1日デモ」に続く民主化運動に対する中央政府の対応を見ると、中央政府が、香港の普通選挙を認めるための地ならしを、着実にやってきたことを見て取れる。

まず、2003年後半以降、中央政府は民主化問題の主導権を掌中に収めた。返還前においては、中国はイギリスの提示する民主化案に対し、受動的に反応することしかできなかった。返還後もしばらくの間、香港政界は民主化問題について、まず香港でその案を作成し、中央政府がこれを審議するという手続きを想定し、香港がイニシアチヴを持つものと考えていた。しかし、民主化運動の白熱化を見て、中央政府は2004年4月、香港の選挙制度改革について、まず中央政府が改革の必要性を判断し、それから香港での議論に付すという手続きを規定した。これによって、普通選挙の実現は、北京の決定次第であることが明確化された。

また、中央政府は普通選挙の内容についても、独自の見解を示した。2004年2月、中央政府は様々な形で、「香港を統治する者は愛国者でなければならない」と主張した。ここから、普通選挙の実現後も、行政長官や立法会議員が「愛国者」、即ち中央政府と良好な関係を持つ者となることを確保するための、具体的方法が議論されるようになった。

行政長官選挙の場合、出馬要件を厳しく設定すれば、選挙は「親北京派候補A」「親北京派候補B」「親北京派候補C」から市民が行政長官を選ぶ選挙になるかもしれない。立法会議員選挙の場合、現在財界人を主とする一部の職業の者にしか投票権が与えられていない職能別選挙を、投票権を全有権者に拡大することによって「普通選挙化」という、「職能別普通選挙」の案も示されているが、職能別選挙には、財界人に極端に有利な、巨大な「一票の格差」が存在しており、それを是正しなければ、単に投票権が全市民に与えら

れても、財界人偏重に変わりはない。こうして、行政・立法のいずれのレベルにおいても、普通選挙実現後の「民主派政権」の誕生は避けられるのである。

香港基本法が将来の普通選挙化を約束する条文を盛り込んだ際、多くの者は、将来香港の政治体制が、欧米流のデモクラシーになることを想定した。しかし、予め絞り込まれた者のみを候補とする行政長官普通選挙や、立法会の職能別普通選挙は、国際的に見てデモクラシーの基準を満たすものではない。香港の民主化は、1980年代にイギリスが開始し、返還を跨いで継続してきたように見えるが、その内実を見ると、実際にはこの問題は、イギリス主導の、選挙による政権選択を骨子とする欧米型デモクラシーの移植から、民意のある程度の反映を実現する一方、政権交代は認めない「中国の特色ある民主」の実践へと、その意義を転換させているのである。

しかし、このような大転換に対し、香港の世論は概して冷静である。従来から政治・経済・社会の自由が保障されてきた香港では、民主化問題は、経済情勢ほどには関心を集めない。大陸の経済発展の恩恵にあずかり、中央政府との関係を重視する傾向の強い香港市民は、「中国の特色ある民主」を、概ね抵抗なく受け入れているように見える。

今年9月の立法会選挙では、中央政府が普通選挙の実現時期を示したことを受け、民主派も民主化問題を争点化しなかった。皮肉なことに、民主派は経済問題を争点とすることで善戦し、普通選挙枠で議席を一つ増やした。選挙制度改革法案の可決には、立法会の3分の2の賛成が必要である。全60議席の立法会で、民主派は23議席を持ち、民主派の賛成なしに法案は通らない。

中央政府が推進する「中国の特色ある民主」に、民主派の求める「デモクラシー」的要素をどの程度取り入れるかは、民主派・香港政府のこれからの駆け引きにかかっている。財界政党の自由党が大敗の上分裂し、労組や草の根よりの議員が多数当選した今期の立法会は、経済政策においても、財界優先ではなく、「民主」即ち多数派の庶民の利益の尊重を政府に求めるであろう。自由主義経済の信奉者とされる曾蔭権行政長官にとっては、厄介な状況が続くようである。



民主派が23議席をとった立法会（写真提供：香港特別行政区政府）

特集

「香港は、いま」

GDP, 第4・四半期はマイナス成長も

十大インフラ推進が景気回復のカギ

フリーライター(9月までJETRO香港勤務)

村田 綾

香港をワンフレーズで表現すれば?いろいろな言葉がありますが、「百万ドルの夜景」はその代表。山頂(ピーク)や九龍側の星光大道(アベニューオブスターズ)から眺める夜景は、香港イメージの象徴といえます。これらのイルミネーションから、香港経済の変化を身近に感じることができます。星光大道からの夜景では、勢いのある企業、特に近年はハイアールや中国人寿などの中国企業が大きく社名を輝かせています。

2007年、香港経済は06年より少しダウンしたものの、政府の当初予測より高い伸びを示し、GDP6.4%という堅調な結果に終わりました。サブプライム問題の影響もみられましたが、中国本土からの観光客の増加、個人消費が牽引役となり、また、中国本土経済の二桁成長にも引っ張られた形です。失業率は4%まで下がり、不動産市場も成長を遂げました。2003年、SARS(重症急性呼吸器症候群)が香港経済を直撃したとき、個人消費はマイナスに転じ、失業率は7.9%でした。観光客が激減したこともあり、イルミネーションは減少、彌敦道にいたっては土日のみの点燈でした。

いま、街を歩くと新しい建物と店舗が目につきます。不動産価格の高騰はここ数年間、異常な値上がりを見せ、投資家に多くの利益をもたらしました。少し古い話ですが、蛋糕(エッグタルト)で有名な『泰昌餅店』の家賃交渉が決裂し、中環(セントラル)の店を閉店したのが05年5月、オーナーの歐陽李念氏がメディアに、閉店のいきさつと窮状を訴えていたのが印象に残っています。2003年以降、右肩上がりに上昇し続けた不動産販売価格は、オフィス・一般物件とも2008年第2四半期まで上昇を続け、やっと天井に達した感があります。余談ですが、この蛋糕店は同年9月にはイタリアのカフェチェーンと組んでリニューアルオープンを果たしました。

また、不動産価格の上昇に加え食品価格も上昇したため、07年は飲食店、特に老舗の閉店が増えた年でもあります。食料価格は世界的に上昇していますが、香港も同様です。08年第2四半期の消費者物価指数は5.7%と、すでに経済成長率より高い数値を示し、家計や外食産業を圧迫しています。例えば、食用油の価格は2倍にはね上がり、豚肉は1年で約30%値上がりしました。外食産業を除く食品の消費者物価指数は、08年の第2四半期で19.2%です。外食における値上がりはまだそれほど顕著ではありませんが、小麦、米などの原料の値上がりにより、飲茶や麺類などの値段がじわじわと上がってきています。曾蔭権(ドナルド・ツァン)行政長官は、7月に低所得者に対する公共住宅家賃の免除など、110億香港ドルを投じる生活支援策を実施、今後も景気対策に重点をおくことを明らかにしています。

また、個人投資家が多いのも香港ならではの、タクシーの運転手が挨拶代わりに株の話をしてきます。ハンセン指数は10月に入り1万5,000ポイントまで後退しました。インフレと株価下落による消費者意欲の減退は今後の香港経済にも影響することになりそうです。街を歩くともうひとつ気づくことは、中国本土からの旅行者の増加です。ブランドショップはもちろん、多くの場所で普通語を耳にします。07年、中国本土からの観光客は1,549万人、全体の55%を占めました。

同年の入境旅客の総消費額は1,333億香港ドル(約1兆9,500億円)です。03年より段階的に中国本土の人たち香港への自由旅行が解禁され、今では49都市の2億5千万人以上が個人旅行ビザで来港しています。彼らの購買意欲は旺盛です。宝飾品の購入のために香港を訪れる人も多く、「ある中国本土からの旅行者が15万香港ドル以上もするロレックスを5個購入した」と話題になるほどです。高級中華レストランで高価なワインを豪快に空けているのもこれら旅行者やビジネスマンが多く、今年2月にアルコール度30%以下の酒類とワインは物品税の対象から外されたせいか、目に付く存在となっています。

先日、中国銀行(香港)は、「中国銀行経済月間」の9月号で、08年年間の香港のGDP予測を約4%とし第4四半期はマイナス成長になるかもしれないと報告しました。特に、米国への輸出減退に打撃を受ける貿易業および金融業を中心に雇用が厳しくなり、失業率は年末には上昇、不動産市場も打撃を受けるだろうと述べています。しかし、香港政府は昨年の施政方針で十大インフラ計画を発表しています。今年からこれが順次推進されることから、現在7%を超えている建設業の失業率が緩和され全体の雇用改善となるとともに、この十大インフラに、中国本土との越境インフラが4つ含まれるため、これによって中国の金融サービスセンターとしての香港の機能を強化し経済の発展が期待できると締めくくっています。中国本土との連携を保ちつつ、継続的な経済発展を模索している香港の底力が試される時かもしれません。



米国発の金融危機は香港の物流にも影響を与え始めている(葵涌のコンテナ・ターミナル=香港特別行政区政府提供)

特集

「香港は、いま」

リーマン事件とレッセフェールの変貌

『香港ポスト』編集長 杉村 朋子

香港社会で今最もホットなニュースといえば、やはりリーマン・ブラザーズ事件でしょう。これが「米国発の金融危機」という世界的な経済問題であることは言うまでもありませんが、ここ香港では「個人投資家の被災」という身近な社会問題として、より大きくクローズアップされました。

10月4日、セントラルにある中国銀行（香港）本店前で、リーマンの金融商品を購入していた市民が「リスクを知らされずに購入した。銀行にだまされた！」と運用資金の返金を求めて激しく抗議しました。6日には湾仔の警察本部ビル前に約200人のデモ隊が集まり、この問題を詐欺事件として捜査するよう要求。

香港紙の一面を飾った「雷曼苦主(苦境に陥ったリーマン商品購入者)」と呼ばれる個人投資家たちは、中年の主婦や高齢者も多く、高リスクの金融商品を彼らに販売した銀行側の説明責任がまず問われたのです。

特に問題とされたのは「ミニボンド」というリーマンの金融商品でした。中国語で「迷你債券」と書くのですが、これは債券ではなく複雑な仕組みによるデリバティブです。さらに連日の報道で「厳しいノルマを課され、長期の定期預金があって投資経験のない高齢者を狙って販売するよう上司に指示された」という銀行員の告白なども明るみになり、金融当局の監督責任に強い批判の声が上がりました。

香港金融管理局（HKMA）は、リーマン商品に関連して7000件以上のクレームを受け、このうち銀行の販売手法が不適切であったとみられる数十件のケースを調査していると説明。一方、10月開会したばかりの立法会でもさっそく議題に取り上げられ、香港金融管理局の任志剛（ジョセフ・ヤム）総裁が答弁に立ったほか、「リーマン・ミニボンド事件調査委員会」が特別に設置されました。

こうした中、曾俊華（ジョン・ツァン）財政長官が同商品の買い戻しを検討するよう銀行協会に要請したと明言し、香港の首長である曾蔭権（ドナルド・ツァン）行政長官までもが10月15日の施政方針演説後の記者会見で「今週中に解決する。これ以上、先延ばしにはしない」と約束する異例の事態となったのです。その2日後に銀行協会は「市場価格から評価した一定の価格で買い戻す」と、政府の提案をほぼ受け入れる決定を発表しました。

ご存じの通り、経済においては「自由放任主義（レッセフェール）」を標ぼうする香港ですが、1997年、国際投機筋の香港ドルアタックに対し、特區政府は初めて外国為替市場への介入に踏み切り、続く98年には株式市場での本格的な介入も行っています。当時、財政長官であった曾蔭権・行政長官は、先日の記者会見で自由放任主義の変貌について問われ、「何もしなければ備蓄が流出し、香港の金融地位がぜい弱に



施政方針演説後の記者会見で「リーマン事件の解決」を約束した曾蔭権・行政長官（写真提供：香港ポスト）

なる。主義だけでこの問題を語ることはできない。市場が効力を失ったときはすなわち政府の介入を必要とするときで、われわれは介入する」と決意を述べました。

香港では今のところ金融機関の破綻は報告されていませんが、特區政府と香港金融管理局は10月14日に「香港域内にある預金の全額保護」「（必要となった場合の）銀行への資本注入」という金融安定化措置を先んじて発表しました。「干渉は悪いことではない」と曾蔭権・行政長官はコメントしています。とはいえ、個人投資家の取引にまで政府が介入するのは異例中の異例です。それは、この一件が経済問題というより、「和諧社会（調和の取れた社会）」を施政のスローガンに掲げる特區政府にとって解決を急がねばならない「社会的弱者の保護」、つまり社会問題とみなされたことを示しているのではないのでしょうか。

日本紹介イベント相次ぐ

さてここで、日本人社会の近況もお伝えします。マカオでは澳門留日同学会、澳門日本会、澳門大学日本研究センターが主催する「澳門日本文化祭2008」が10月26日に、香港では香



モートンテラス運動場で開かれた「日本の祭り2008」での盆踊り風景（写真提供：香港ポスト）

港日本人倶楽部が主催する「日本の祭り2008」が11月23日に、それぞれ行われました。在留邦人が集うのみならず、地元の人々に「日本」を紹介する交流イベントは、マカオでは2年に1度、香港では3年に1度の恒例行事となっています。おでん、金魚すくい、ヨーヨー釣りなどの屋台が並び、日本人学校の児童による和太鼓演奏などもお祭り気分を盛り上げました。

特集

「香港は、いま」

ビクトリアシティー境界石を捜せ！

香港人も知らない！香港史蹟スポット巡り

香港日本人学校 森山 正明(写真も)

香港がイギリスの植民地として国際法上認められたのは、1842年に締結された南京条約によるものだ。しかし実際に統治が始まったのは、初代香港総督であるサー・ヘンリー・ポットインジャーが1843年6月に就任してからである。以来、1860年の北京条約で九龍半島を割譲、1898年には、香港境界拡張専門協約（展拓香港界址專條）で新界地域を租借し領域を拡大していった。

この植民地の中心となったが、現在のセントラルである。最初は、クイーンズタウンと命名されたが、すぐにビクトリア女王にちなみ「ビクトリアシティー」と呼び名を変更し、その後植民地香港の中心地として発展していった。その後、植民地は順調に発展を続け、イギリスそして大陸から労働者が大挙して押し寄せ、人口が増え続け市の範囲が拡大した。それに伴い、1857年にビクトリアシティーの範囲を拡大し「四環九約」という行政区画に分割した。四環は、西環（現在の堅尼地城・西營盤）・上環・中環・下環（現在の湾仔）であり、九約は四環をさらに小さな行政単位で区切ったものだ。

地名でいうと次のようになる。香港島北岸を西から東へ向けていう。堅尼地城から石塘咀、石塘咀から西營盤、西營盤、干諾道西の東半分、西港城（ウエスタンマーケット）から中環街市（セントラルマーケット）、中環街市至軍器廠街、軍器廠街から湾仔道、湾仔道から鵝頸橋、鵝頸橋から銅鑼灣となる。このように行政区画を細かく分けることによって、ビクトリアシティーが抱えていた行政サービスをそれぞれの地区の役所が行い、行政の効率が図られるようになった。（但し、第二次世界大戦後、この行政区画は廃止された）

1903年になり、香港政庁は香港市民にはっきりとわかる形で、ビクトリアシティーの範囲を明確に示そうということになり維多利亞城界碑（ビクトリアシティー境界石）を設置した。高さ98cm、直方体の石碑で、頂上部が角錐（かくすい）、正面には「CITY BOUNDARY 1903」の文字が刻まれている。政庁の官報によると、6つの境界石を設置したと記録されているが、2005年、記録されていない境界石が馬己仙峽道（マガジンギャップロード）で発見され、新聞紙

上を賑わせた。ただ、その境界石が発見されたのち行方不明となり、現在もその在処がわかっていない。謎は深まるばかりである。

6つの境界石の場所を地図で確認すると、見事にビクトリアシティーの境界が浮かび上がってくる。過去の街の広さを実感できるこの6つの境界石を探す旅は、香港の歴史をより深く知るきっかけとなるに違いない。地図を片手に、宝探しにも似たこのオリエンタリングに参加してみたいかだろうか。香港の原風景に出会える貴重な旅となるはずだ。

■境界石のある場所

（香港島西から東にかけて順番に記していく）

- ★堅尼地城（ケネディータウン）西寧街の北側にある**堅尼地城臨時遊樂場**（公園）内
目印→10 101 104番バス終点のバスターミナルから西側へ歩いた場所。（写真①）
- ★西環（サイワン）**薄扶林道**（ポックフウラムロード）
目印→3B 23 103番バス終点のバスターミナルから南側へ400mほど歩いた場所。地下歩行者専用道路出口近く（写真②）
- ★香港大学メインキャンパスの山側にある**克頓道**（ハットンロード）
目印→13番バス終点 香港大学学長宅がある。そこから**克頓道**（ハットンロード）が始まる。400mほど坂道を歩くと見つけることができる。（写真③）
- ★山頂（ピーク）**舊山頂道**（オールドピークロード）と**地利根德里**（トレグンターパス）の交わる近く。
目印→ピークタワーを出て右方向へ。**舊山頂道**へ降りる階段がある。そこを道沿いに歩いて**地利根德里**と交わるまで行く。徒歩20分。（写真④）
- ★ハッピーバレー・港安醫院（アドベンティストホスピタル）近くの**寶雲道**（ボーエンロード）
目印→15番バス 港安醫院下車。すぐ近くに**寶雲道**の入り口がある。入り口から歩いて500mほど歩く。（写真⑤）
- ★ハッピーバレー・**黃泥涌道**（ウオンナイチュンロード）
目印→ハッピーバレー行きトラム線路沿い。**聖保祿小學**（セントポール小学校）の反対側歩道。（写真⑥）



第9回「香港フォーラム」に

日本香港協会 全国連合会 事務局

香港ビジネス協会世界連盟 (Federation of Hong Kong Business Association Worldwide / 本部=香港貿易発展局内) の世界大会に当たる「香港フォーラム」は、2008年度で第9回目を迎えました。本年度は、10月30日～31日の2日間、グランド・ハイヤット・ホテル及びルネッサンス・ハーバービュー・ホテルにて全世界24ヶ国の32のビジネス協会から441名の会員が参加し、大盛況のうちに幕を閉じました。今年度のフォーラムは、昨年度に引き続き「Connecting China and the World through Hong Kong」をスローガンとして掲げ、世界中のメンバー間及び香港企業とのネットワークキングにスポットを当てて開催されました。

日本香港協会からは、東京、関西、中京、福岡、山形、北海道、宮城、沖縄に加え新設の全国連合会の合計9団体からミッションの派遣があり、総勢90余名のメンバーが香港で一堂に会しました。日本からの参加者は、過去最高の80余名の記録を塗り替え、国別ではカナダの140名に次いで第2位の規模となりました。

本年度は、全国連合会の設立に際し29日の午後第1回役員会を開催、財前会長 (NPO法人日本香港協会理事長)、國場副会長 (沖縄日本香港協会会長)、古田名誉事務局長 (香港貿易発展局日本首席代表) をはじめ、戒田関西日本香港協会理事・事務局長、水野中京日本香港協会副会長、藤村福岡日本香港協会副会長、佐藤山形日本香港協会元会長、油川宮城日本香港協会理事ら連合会のメンバー協会から代表者の方々にご参列いただきました。



第1回連合会役員会

役員会に引き続き全国連合会の発足式が執り行われ、各地協会の代表者から本年度 (上半期) のレビューと次年度の活動計画の説明があった後、記念セミナーが開催されました。セミナーでは、連合会の古田名誉事務局長 (演題:「香港から観る中国の未来: 華人ネットワークと日本香港協会事業連携への展望」)、関西日本香港協会華人経営研究部の馬場氏 (同:「華人経営塾 (CMMS) の成果と事業拡大・共有化計画」)、香港貿易発展局東京事務所の伊東次長 (同:「日本食品・農林水産物の輸出振興政策と日本香港協会事業との協



全国協会交流会における佐藤総領事挨拶

働) 3氏の講演があり、全国規模に広がる協会事業の強化・会員増強へのヒントを得ることができました。

例年に倣い、同日夜には全国連合会主催で「全国協会交流会」が開かれました。本年度は北海道支部が幹事役となり、8円卓、総勢94名の出席者を数えるなど、昨年度を更に上回る盛会となりました。在香港日本国総領事館から佐藤総領事・右手副領事、香港日本人商工会議所の川副副会頭・木下理事、香港貿易発展局のラルフ・チャウ前日本首席代表らをゲストとしてお招きし、美味しい本場の広東料理に舌鼓を打ちながら、地域の枠を超えたメンバー同士の交流が積極的に行われました。

フォーラムの初日 (30日) は、香港貿易発展局フレデリック・ラム総裁による歓迎の辞に始まり、香港ビジネス協会世界連盟バリー・マクドナルド会長の開会の挨拶を経て、「中国ビジネス成功に隠された秘密」と題して、スワイヤグループのフィリップ・チェン会長、スタンダード・チャータード銀行のベンジャミン・ホンCEOを招いてのパネル・ディスカッションが実施されました。続いて、「香港の競争優位と勝利への戦略」をテーマに香港・中国の実業界のリーダーを招いてのパネル・ディスカッションが行われ、昼には、香港貿易発展局会長ジャック・ソー氏主催による昼食講演会が開催されました。特別ゲストとして拍手で迎えられた香港特別行政区政府財務長官のジョン・ツアン氏は、熱のこもったプレゼンテーションで金融危機下においても強靱であり続ける香港をアピールしました。午後には、オプション・プログラムとして東京・関西のメンバーが、新展示会場であるAWE (アジア・ワールド・エキスポ) で開催された「エコ・エキスポ・



フォーラム風景

日本香港協会が全国規模で参加

アジア（環境保護関連見本市）」を視察、深刻化する香港の大気汚染に日本の環境保護技術が必要とされていることなど、参加者一同認識を新たにしました。

2日目（31日）は、香港特別行政区政府金融財政局長のK・C・チャン氏の講演の後、世界各国のビジネス協会の年間を通じた活動を表彰する「Outstanding Initiative Award」の発表が行われました。昨年度は、残念ながら無冠に終わった日本勢でしたが、今回は「進化する香港」をテーマに、中国人民大学黄泰岩教授を招いて東京・大阪で開催したビジネスセミナーが高い評価を得て、東京・関西のダブル受賞ができませんでした。関係者の皆様、本当におめでとうございます。その後、全世界規模の役員会・理事会があり、日本を代表して連合会の賤前会長が出席、新役員選出に当たり議長の大役を果たしました。



アワード受賞写真
（東京・五味副理事長と関西・戒田理事事務局長）

同日昼の講演会におきましては、香港特別行政区政府の行政会議メンバーC・Y・リョン氏が登場、夜には、「ハロウィーン」をテーマにフェアウェル・パーティーが盛大に開催され、世界中から集まった多数の参加者が出席、交流を深めました。出し物のトップバッターとして日本を代表してステージに上がった「ダンディー・フォー」（北海道日本香港協会安齋副会長率いる男性コーラスグループ4人組）は、結成23年目とは思えない美声で「上を向いて歩こう」、「北国の春」（広東語版）、「好きです札幌」の3曲を熱唱、参加者全員から拍手喝采を浴びました。

全国各地の日本香港協



熱唱するダンディー・フォー

会に加入しますと、自動的に世界連盟のメンバーとして登録され、毎年当該フォーラムへ参加する権利を有することになるわけですが、特に香港を通じてビジネスを拡大したいと考えている人達を対象に、本フォーラムの「国際的ネットワーキング機能」をPRして行くことが、新規会員獲得延いては各地協会の発展にも繋がるものと思われます。協会によっては、日本人アントレプレナー集団である「和僑会」、在日華僑団体、香港と新規に事業を興したい企業などを新たな仲間として迎え入れるべく、積極的な活動を開始しております。会員の皆様も、是非周りの方々にお声掛け下さい。

なお、本年度の香港フォーラムの詳細につきましては、香港ビジネス協会世界連盟のウェブサイト<http://www.hkfederation.org.hk> 及びその中の第9回「香港フォーラム」専用サイト<http://www.hkfederation.org.hk/forum/forum2008/main/index.asp>でもご覧いただけますので、ご参照下さい。



全国交流会参加者集合写真

七夕パーティー 2008

文化交流委員会

今年の七夕パーティーは東京・錦糸町の東武ホテルレストランで昼食buffet形式、中国の故事にならって旧暦の7月、新暦の8月10日(日)の開催となりました。当日は午後から日本香港協会が協力しているアジア・ユース・オーケストラのコンサートが隣接のすみだトリフォニーホールで開催され100名を超える会員、会員のご友人やご家族が昼食後のコンサートを楽しみました。



熱弁を振るう芸術監督のパンチャス氏

パーティーは日本香港協会の財前宏理事長の挨拶で始まり、40品のバラエティに富んだ東武ホテルご自慢

のbuffet料理を堪能、会の後半にはアジア・ユース・オーケストラの芸術監督／指揮者のリチャード・パンチャス氏が来場、アジア・ユース・オーケストラの発足の経緯や毎年の運営の秘話等をご披露、パーティーは大いに盛り上がりました。

恒例のラッキードローにはキャセイパシフィック航空、コンラッド東京、ヒルトン東京、住商アーバン開発をはじめ多数のスポンサーから多数の豪華賞品をご提供いただき、特賞のキャセイパシフィック航空ご提供の香港往復ビジネスクラス航空券(ペア)は東京在住の深野早苗さんが射とめられました。



ラッキードローのトップ賞を受ける深野さん

ROBERTLAMCOLOR®
PHOTOBITION
Japan - HongKong

High Quality 安定した高品質維持のため、時間と努力を惜しまない
Good Service 迅速で行き届いたプラスアルファのサービス
Good Price お客様に満足いただける価格をご提案



3つのテーマにもとづいたカスタマーファーストの精神を第一に考え、高品質で効果的なディスプレイ製作をお客様の立場でご提案致します。

フォトビションは、香港と日本を拠点に、屋外広告、店舗ディスプレイ等の広告物を製作し、世界各国に提供している会社です。

最大幅5メートルの大型インクジェットプリンターをはじめ、UVプリンター超画質な銀塩タイプデジタル写真出力機等、最新の生産設備を備えファッションやコスメティックブランドのグラフィック、展示会装飾大型ビルボードなど多岐に渡るお客様のご要望に的確にお答えしています。

フォトビションジャパン株式会社

アジア ユース オーケストラの日本の夏

日本香港協会 理事
アジアユースオーケストラ 日本事務局代表
佐藤 劭

アジア ユース オーケストラ (AYO) の夏は、例年アジア各国からオーディションによって選ばれた17才から27才迄の100名に上る若き演奏家達と関係者全員の熱い想いで心はざわめき躍る。芸術監督兼指揮者のリチャード・パンチャスは、毎年1月から3月にかけてアジア各国を訪ね、音楽大学の専任教授と共に厳しいが心温まるオーディションを行う。その応募者は2,000人から2,500人に及ぶ。よくぞ19回も回を重ねてきたものだと感心すると共に、その労苦に対し頭が下がる。

アジア各国から選ばれた団員は、言語、宗教、政治体制、慣習等など全てが異なった環境で育った若者であり、短期間でオーケストラを結成しハーモニーを仕上げて行くのは至難の技である。そんな中で、寸暇を惜しんでのツアーコンサートのための各国演奏訪問先との折衝。7月には香港での三週間以上にも亘るリハサルキャンプ。8月の各国・各都市への演奏旅行。一年間はあっという間に過ぎ去り、繰り返されて行くのである。「根気よく、何故続けて行くことができるのだろうか?」と感心ばかりしてはられない。それには理由がある。

アジア各国の若い演奏家達が友情と連携を通して一つのオーケストラとなって素晴らしいハーモニーを奏

でる事によって、アジア・世界の平和に貢献すると言う素晴らしいAYO設立の理念こそが、これまでの継続の根源と言えよう。又、個々の若い演奏家たちにとっては、このAYOでの経験こそが、これからの音楽家としての独り立ちする成長のための強力なビタミン剤である。

2008年のAYO演奏ツアーは、当初の計画ではアメリカ8都市でのコンサートをも予定、最終公演は東京と決定していたがサブプライム・ローンに端を発した経済混乱・不況の影響で、米国ツアーはキャンセルとなり、全面的に変更せざるを得なくなった。加えて東京オペラシティコンサートホールの改修と重なり、東京でも代替会場の確保に苦勞する事となった。

8月10日(日)すみだトリホニーホールでのコンサートは、日本香港協会の七夕パーティに相乗りし、協会会員にとっては初めてのコンサート付きパーティとなり大いに盛り上がった。また、11日(月)の最終日の東京芸術劇場でのコンサートも大盛況となり、聴衆の洗練された応援もあって会場全体が大きな感動の渦で満たされ、団員と聴衆が一体となって真夏の暑さを吹き飛ばした。翌日、若き演奏家達は、日本公演での素晴らしい思い出を胸に、次の公演地台北に向かって離日した。

近い将来必ずや世界に真の平和が実現することを信じつつ。。。。

日本の夏ありがとう!。。。。



JARDINE LLOYD THOMPSON
Limited

Focusing on Innovation

リスクソリューションはテイラーメイドで

- 企業保険コンサルティング
- 地震リスクのヘッジ
- 売掛債権保全
- 貿易保険
- 建設工事保険

—— 他あらゆる分野の保険を取り扱います



ジャーディン ロイド トンプソン 株式会社
〒103-0023
東京都中央区日本橋本町1-2-6
TEL. 03-3517-3030
<http://www.jltasia.com>

ピークトラム120周年

広報委員 小柳 淳

香港中環の花園街から急坂を登るピークトラムは今年開通120周年を祝った。1888年開通ということは、スターフェリーや路面電車よりも歴史が長い。19世紀末に観光客が香港にたくさん詰めかけた、などという事態は考えにくく、そのころピークトラムは香港住民のための公共交通機関であったのだ。それは、今でも途中で4個の駅があることから解かる。

それにしても、香港島北岸の海辺を東西に走り、上環、中環、湾仔、銅鑼湾など当時から開けた主要な地域を結ぶ路面電車より10年以上も早く、ピークへ登る乗り物ができたのは不思議な気がする。山に登るルートが最優先の公共交通とされたのは何故なのだろうか。時は帝国主義が大きな顔をしていた19世紀である。英領植民地香港の北限はまだ九龍の界限街まで、その北に接する清国広東省の一部が新界として99年の租借という方法で英領となるのは、ピークトラム開通からさらに10年の後である。当時の香港は英国をはじめとする欧米人優先社会だったはずで、富裕な欧米人はミッドレベルやピークの環境の良いところに住んでいたのだ。したがって、植民地香港社会上層の人々用にピークトラムがまず造られたのだ。海拔788フィート（約240m）以上の地区は欧米人しか



ピークからの景色。すでに同じ高さのビルが現れている。

住んではならぬと決められ、驚くべきことに1946年までその規則があったという。

21世紀の現在は、幸いなことに誰でも山上に住んでよく、その何倍もの観光客がニコニコしながらピークトラムで登り降りしている。香港の繁栄をビジュアルに示す超高層ビル群とハーバーのパノラマが眼下に広がる、素晴らしい観光スポットへの足となっている。120年もの間、海拔397mの高さにあるピーク駅まで多くの人々を運んできたが、近年思わぬ異変が起こっている。中環の海辺にできた超高層ビルIFC IIは、なんとピーク駅よりも高くなってしまったのだ。今後も400m級ビルの建設計画があり、見下ろしていたはずの香港の街が、ピークの高みにまで背伸びをしてしまった。変化激しい香港社会と同じく、ピークからの風景さえも変化してゆくのだろう。

中国株 取引

ユナイテッドワールド証券の中国株取引はココが違う!

ユナイテッドワールド証券の香港子会社は香港証券取引所正会員です。

- ① 香港証券取引所直結のシステムで、中国株がリアルタイムで取引!
- ② モバイルトレードもご用意、携帯電話からも中国株取引
- ③ 業界最多水準の取扱銘柄数(香港証券取引所上場のほぼ全銘柄を取り扱い)
- ④ H株、A株、インド株などのETFも取り扱い!
- ⑤ 現地カレンダーで営業、日本の祝日でも取引できます!

各種無料情報で、皆様の中国株投資を強力にサポート!

口座開設をしていただくと、さまざまな情報が無料でご利用いただけます。

取引手数料は国内手数料一律固定 157.5 香港ドル(税込み)のみ

その他入出金時には為替手数料として1香港ドル当たり片道 15 銭(往復 30 銭)がかかります。

※中国株取引時に必要な手数料・諸費用、その他権利取得にかかる費用、公租公課、その他の賦課金について、詳しくは弊社ホームページの「中国株手数料等」でご確認ください。



詳しくは弊社ホームページでご確認ください

<http://www.uwg.co.jp/>

リスクと注意点について

●外国株式は、為替リスク、政治リスク、信用リスク、流動性リスク、カントリーリスク等による価格変動等で、元本損失が生じる恐れがあります。お取引にあたっては、弊社 Web サイトにて契約締結前交付書面等の内容をよくお読みいただき、ご自身の責任と判断をお願いします。



United World Securities Japan K.K.

ユナイテッドワールド証券株式会社

0120-355-939 <http://www.uwg.co.jp/>

●金融商品取引業者 ●登録番号：関東財務局長(金商)第193号
●加入協会：日本証券業協会、(社)金融先物取引業協会、(社)日本商品投資販売業協会

【弊社は日本証券業協会より、平成20年8月1日から平成21年1月31日までの期間、会員権の停止処分を受けております。】

再び香港企業のビジネスモデルを学ぶチャンス

湾 仔

恒例の香港フォーラムの後、深圳などの工場を見学したが今や驚くべき変化の嵐が珠江デルタを吹き荒れている。

各地で中小工場のみならず大規模工場の閉鎖が続いている。既に報道されているので詳細は省くが、玩具の最大手、クリスマスツリーの最大手、家電大手、電子基盤大手などに続き加工貿易関連7万社のうち4万3千社が困難な状態（広東省副省長）、香港系の2万社は年内に倒産（香港中小企業連合会）と伝えられている。中国経済の過度の輸出依存もあるが、銀行の貸し渋り、元高、労賃高騰の環境変化にさらに世界同時不況が追い討ちをかけたものだ。玩具、繊維、靴、プラスチック、家電、家具と総てに影響は及び、広東省のみならず沿海部各省とも打撃を受けている。工場閉鎖にあたり経営者が夜逃げしたというケースが多い。実態は新しい労働法により労働者の権利主張が激しく、労働争議も多発しており、工場閉鎖を持ち出そうものなら何をされるか分からないということらしい。一方、地方政府も工場跡地は再開発できるので未払い給与も市が立替払いしている。30年前から香港企業はこのビジネスモデルを造り米国のウォルマートなどデイスカウターのサプライチェーンの一環に組み込んできた。香港の地域本社機能、金融機能と広東省の労働集約型企業との見事な組み合わせで我々も大いに学んだものだが意外に早くも30年でピークアウトしたものだと

思う。広東省のもう一つの主要産業たる自動車産業も減産せざるを得ないであろう。部品工場など周辺産業の裾野が遥かに広いので影響は甚大だ。日本の大手メーカーは国営企業との合併なので 減産一解雇を最も嫌がる国営企業とどのように解決するのだろうか。

一方、省・市などの地方政府は此処に来て変節と言うか、つぎつぎと方針変更を打ち出し現地の人々は困惑している。環境問題などから「出て行ってくれ」であったのが、「出て行かないでくれ」に変わった。何れ加工貿易も若干形態を変え存続するだろう。環境問題などは先送りだ。広東省政府は輸出2桁成長を維持しない限り省経済は失速するので2008年輸出総額の2桁成長確保を各部門に指示したというが、来年はどうするのだろうか。工場経営に当たっている人はコスト上昇より政策の度重なる変更困っている。仕事の70%がこの関係の交渉となる。結果として香港企業は一旦香港に戻るケースが多いようだ。再び香港で生産となるのだろうか。

香港企業は参入も撤退も早い。今回の世界同時不況はかなり長く続くと見る。金融都市香港は直接ツナミを被り、更に後背地の中国は失業問題で大揺れするであろう。失業者は一旦農村に帰るだろうが、農業はさらに問題を抱えることになる、元々、外資頼み、輸出依存経済なので此処で外資が出て行ってしまうと大変なことになる。

日本も香港もこれから苦難の時代だが、アジアの国際都市香港の企業がどのような次の手を編み出すか我々も注目して学ぶべき時だと思う。



A member of the
DCH Group

日本大昌行集団株式會社 DCH (JAPAN) HOLDING CO., LTD.

香港大昌行集団有限公司の一員として、
貿易業務を行う株式会社大昌貿易行及び
不動産管理開発業務を行う合力不動産開発株式会社を
統括する持株会社として2007年7月2日に設立されました。

事業内容

■株式会社大昌貿易行

食品・服飾雑貨・自動車・機械・建材などの輸出入、
マーケティング及び販売業務

■合力不動産開発株式会社

商業ビル及び高級マンションの賃貸及び開発業務

<http://www.dch-japan.com>

東京都港区六本木5丁目18番2号 大昌第2ビル TEL.03-3560-8584 FAX.03-3560-8590

National

日本香港協会 全国連合会

The Japan Hong Kong Society-National

日本香港協会全国連合会発足！

日本香港協会 全国連合会 事務局

1988年に東京において任意団体として設立され、今年で20周年を迎える日本香港協会ですが、1990年以降関西、中京、北九州、福岡、山形、北海道、宮城、沖縄と9つもの支部を抱える大所帯となり、これら各地に点在する協会の活動をコーディネート、側面支援する目的で、全国連合会組織が10月1日付で発足致しました。

発足に先立ち、8月29日に香港貿易発展局が音頭を取って全国事務局長会議を開催、全国連合会の運営に関して討議を行いました。東京の塚本理事・事務局長、関西の戒田理事・事務局長、中京の佐藤理事・事務局長、福岡の藤村副会長、山形の渡辺副会長・事務局長、北海道の鶴田事務局長、宮城の佐藤副代表理事、沖縄事務局の普天間氏に加え、連合会名誉事務局長に就任予定の古田香港貿易発展局日本首席代表が顔を揃え、活発な意見交換がなされました。



事務局長会議風景

特に広報活動の一元化や関西日本香港協会主催の華人経営塾（CMMS）の全国展開につきましては、各地からの要望もあり連合会として早期に取り組むテーマとなりました。

本年度の「香港フォーラム」の前夜祭に当たる10月29日には、全ての協会の代表者が一堂に会して第一回役員会を開催、在香港日本国総領事館の佐藤総領事・右手副領事、香港日本人商工会議所の木下理事・松井事務局長をお招きして盛大に発足式を挙行致しま

した。連合会の初代会長には、NPO法人日本香港協会（東京）の賤前宏理事長が就任されました。任期は2010年3月までとなります。

昨年末に日本・香港間のオープンスカイポリシーが締結されて以降、日本国内の各都市と香港を結ぶ直行便が再就航・新規開設されるなど、今後日本・香港間のビジネス関係はますます強化されて行くものと思われま。このような状況下、連合会事務局は各地協会の活動をコーディネートしつつ、香港ビジネス協会世界連盟の一員として、特に経済・貿易分野においては香港貿易発展局のイベントとの相乗効果創出を目指します。

言わば、日本全国各地の財界が香港との経済交流促進をするに当たり、側面支援をする母体としての連合会ということになりますが、香港経済貿易代表部のジェニー・チョック駐日首席代表、香港政府観光局の加納國雄日本・韓国地区局長を名誉顧問として迎えており、経済・貿易以外の文化・市民・観光交流の支援も積極的に行って参りますので、宜しくお願い致します。

なお、本連合会では全国版ウェブサイト（<http://www.jhks.gr.jp/>）を新設、各地の協会を繋ぐことに留まらず、それぞれの協会の活動内容や特典などの情報が網羅されたホームページとなっておりますので、皆様是非アクセスしてみてください。



事務局長会議集合写真

本会の初年度役員は下記のとおりとし、任期は2010年3月31日までとする。

日本香港協会 全国連合会 役員

会 長	賤前 宏	NPO法人日本香港協会理事長
副 会 長	西田 健一	関西日本香港協会会長
副 会 長	高橋 治朗	中京日本香港協会会長
副 会 長	並田 正一	福岡日本香港協会会長
副 会 長	後藤 誠一	山形日本香港協会会長

副 会 長	吉野 次郎	北海道日本香港協会会長
副 会 長	佐々木 茂	宮城日本香港協会会長
副 会 長	國場 幸一	沖縄日本香港協会会長
名誉事務局長	古田 茂美	香港貿易発展局日本首席代表

香港中秋節パーティ2008

関西日本香港協会 理事・事務局長 戒田 真幸

中国の伝統行事の中で、旧正月と並び市民の生活にしっかりと根付いているのが旧暦8月15日の中秋節です。中秋節は古代中国の農耕の神として月を拜む習慣から発展したものです。秋分の日から、「月が一番丸くて大きい」と讃えられたる旧暦の8月15日に移行したのは唐の時代といわれています。丸い月は農作や家庭円満を象徴するめでたい形で、月餅も名の通り月を象徴しており、中に入っている塩漬けの卵黄は月を表しています。元朝末期に劉伯温という道士が疫病を防ぐには中秋節に月餅を食べねばならないという噂を流し、その月餅の中に「蒙古人の統治を覆すために決起せよ」という秘密文書を隠して人々に伝えたという逸話があります。香港では大規模なランタン祭りが銅鑼灣のビクトリア公園であり、中秋の月にまつわる伝説を題材にした伝統的なものから、現代的なデザインのものまで大型のランタンが展示されます。露店も並び、日本の夜店と同じような雰囲気を楽しめます。又、ランタン（提灯）を下げて練り歩く家族を多く見かけ、ビクトリア公園では多くの家族が沢山のローソクを灯して円座を組み中秋の名月を楽しみます。

関西日本香港協会では、日本・香港間の文化交流と会員同士の懇親行事として香港中秋節パーティーを毎年盛大に催しています。今年も恒例の香港中秋節パーティーを9月24日にヒルトン大阪で開催し、83名が参加して中華料理でディナーパーティーを楽しみました。西田健一会長がご欠席となったため木全千裕副会長の開会挨拶で始まり、東京から参加していただいた香港貿易発展局の日本首席代表古田茂美氏が歓迎の挨拶をされました。パーティーには中華人民共和国大阪総領事館の2名の来賓の他、近畿経済産業局の横澤力通商部長や関西経済連合会、大阪商工会議所等多くの官庁・各種経済団体の代表者に参加していただき、来賓を代表して中華人民共和国駐大阪総領事館の劉雲清領事が流暢な日本語でお祝いの挨拶をされ乾杯の音頭をとられました。

中秋節特別料理は、ヒルトン大阪の中国料理「王朝」の広東料理でデザートに小さな月餅が出て香港を懐しみながら美味しくいただきました。当協会のパーティーでは、毎年アトラクションで中国の芸能などを紹介しています。今回は移情閣友の会コーラス同好会の中国歌曲の素晴らしいコーラスを楽しみました。

移情閣コーラスは神戸舞子海岸に立つ移情閣（孫文記念館）を拠点に日中の文化活動を展開する移情閣友の会の同好会活動の一つとして1989年に発足しました。アグネス・チャンが歌う「大海啊故郷」に魅せら

れて、海を身近に暮らす神戸周辺の主婦が集まり、張文乃先生にご指導を仰ぎ、難しい中国語に苦労しながらも国際都市神戸にふさわしいユニークな合唱団として、中国の歌、世界各国の歌に挑戦し、美しいハーモニーとそこでの人の輪を楽しみながら日中交流行事やチャリティーに積極的に参加しておられます。2004年の第5回中国音楽コンクールでは金賞（兵庫県知事賞）を受賞。7月に中国の無錫で開催された中国国際合唱祭では孫中山記念館女声合唱団として参加し「中国作品歌唱賞」を受賞。又2005年には慈溪での呉錦堂生誕150周年記念式典に出演し、2008年7月には神戸で開催された第2回中国音楽国際コンクールでは一等賞を受賞しました。コーラスは広大な草原の風景を歌った内モンゴルの「牧歌」で始まり、中国の歌で四季をつづってくれました。春は白いジャスミンの花をめでた「茉莉花」、夏は海を身近に暮らすコーラス同好会のテーマソング「大海啊故郷」、秋は金色に輝く砂漠に立ち去っていった恋人を思う「在銀色的月光下」、冬は遠く北の果てに降る雪を愛しむ「我愛 寒北的雪」を歌われ、最後に会場の参加者と一緒に懐しい「ふるさと」を日本語で歌い、パーティーを盛り上げてくれました。

食事の間各テーブルでの会話が大いに弾み、各テーブル間の交流も活発で、毎年のことですが今年も酒代が予算を大きくオーバーしました。最後に、戒田真幸事務局長の閉会の挨拶で楽しかったパーティーを終了しました。

●ご投稿のお勧め

当協会機関紙「飛龍」の役目は、協会側から香港を巡る最新の情報・話題を会員皆様に提供すると同時に、会員皆様同士の間でそれぞれが個別にお持ちの情報・話題を共有する場としてもご活用いただくことにあるのではないかと、日ごろ考えております。これまで、そうした御誘いの努力が欠けていたこと、編集部一同大いに反省しております。

香港も1997年の中国への主権返還後、アジア金融危機、SARS流行など不測の困難を乗り切り、政治・経済・文化あらゆる面で、新しい話題に事欠きません。香港大好き読者皆様も、それぞれの思い入れがおありでしょう。読まれた本、見られた映画、聴かれた音楽、食べられた料理、歩かれた山野、苦勞された商談、なんでも結構です。ぜひご投稿をお待ちしています。

ご投稿の分量についても、特に制約は設けませんが、編集の都合上一応の基準を申し上げて置きます。1ページ文字のみで2400字、写真はサイズ次第ですが原則として1枚300字相当とお考えください。

長良川鵜飼雑感

中京日本香港協会 副会長
事務局長 佐藤 亮一

日本香港協会設立20周年を祝い、今回はビジネスの活動報告を小休止し、夏場会員へのリクレーションとして「長良川の鵜飼見学の夕べ」を報告します。

夏の風物・夕涼みとして、8月6日 22名参加 高橋会長の御紹介にて岐阜長良川料亭で食事親睦会、その後、鵜飼観光船にてひと夏の涼味を満喫した。

鵜飼には、漁法2種類あり、これは鵜の頸を紐で縛り、自由に魚をとらせ、のどに魚がたまったら呼び寄せて吐かせる「放ちづかい」と、のどを縛った首輪と背から腹にかけて腹掛けをした手縄をもって鵜を練り魚をとらせる「つなぎ鵜飼」とがある。我々の見学した鵜飼は、風折鳥帽子に腰衰をつけた鵜匠が手縄をつけた12羽の鵜を練って、アユ漁を行う実に、幽玄の



鵜飼の様子

世界を味わうことができた。

鵜飼の歴史は「万葉集」に夏季の「つなぎ鵜飼」の記述がある。平安時代から武家時代

にかけ鵜飼は献上アユを供給する源として君公の特別な庇護を受け、明治維新後は宮内省の御用を勤め厚遇されていたと聞く。現在は観光客誘致の感あるが、我々の隣国、中国大陸でも古くから行われている。中国中部の江蘇、浙江、南の福建、広東、西南の四川、雲南でもある。例えば、中国・広西チワン族自治区陽朔を流れる濁江における鵜飼は、竿を水面で叩き、船を揺ると鵜が興奮して川に飛び込み魚を採るという手法であるが、日本とは少し違うが興味のある手段である。鵜飼はその技法が珍しく、これを眺めるのも楽しく、捕えたアユの賞味もできるので、かつてしばしば君公の上覧に供せられたが、民主化が進むにつれて庶民の観光資源となって現代に生きている。今後は、例えば中京日本香港協会が主体となり、香港・中国の上記地区に働きかけ国際交流の一環として経済のみならず、鵜飼文化の交流を促進する事も将来の構想に入れたいものである。

今回は「鵜飼雑感」として読んでもらえれば幸いである。



会員懇談会 長良川鵜飼 記念写真

「クリエイティブ香港」in 横浜 李志清 中国画・漫画作品展を開催

クリエイティブ制作における香港の最近の成果の一つに光を当てる展覧会が10月23日(木)から横浜で始まった。[[「クリエイティブ香港」in 横浜]と題したこの展覧会では、香港のベテラン作家、李志清の漫画や中国画を展示。氏はその壮大な漫画シリーズ「孫子兵法」で、外務省により昨年創設された「国際漫画賞」の最優秀賞を受賞しており、香港発の漫画として初めて日本で出版された「三国志」の作者でもある。

本展覧会は「横浜アジアンウェーブ2008」の一環として、香港特別行政区政府 駐東京経済貿易代表部(以下、香港経済貿易代表部)が主催するもので、横浜情報文化センターで10月28日(火)まで開催された。展示作品には、李氏の人気漫画作品に加え、著名な小説家である金庸の武侠小説のシーンを描いた水墨画が含まれる。

展覧会のオープニングセレモニーでの挨拶で、香港経済貿易代表部の祝彭婉儀(ジェニー・チョック)首

席代表は、漫画制作の分野における李氏の功績は香港の大いなる誇りだと述べた。今年行われた第2回国際漫画賞でも最優秀賞は香港の作家、劉雲傑が受賞したことを指摘し、これは香港の漫画家が国際的なレベルを達成し、世界的な舞台で認められていることを示すものだと語った。

また祝(チョック)首席代表は、香港のクリエイティブ産業を振興するため、香港政府は漫画やデジタル・エンタテインメントの業界を支援するのみならず、人材育成を促す多くの施策を打ち出していることを説明した。

同イベントを開催するにあたって協力を得た横浜市に感謝の意を表するとともに、祝首席代表は、漫画はさまざまな国の読者の間で文化交流や理解を促す強力な手段だと指摘。今後も香港と横浜の間で文化、経済、貿易面での交流を促進すべく協力する機会が多くあることを願うとコメントした。

今日のオープニングセレモニーには、横浜観光コンベンション・ビューローの横山悠専務理事、横浜市経済観光局の吉久保英雄・横浜プロモーション推進担当理事、作家の李志清氏および約70名の招待客が出席した。

福岡日本香港協会 事務局

日本香港協会全国連合会発足式

10月29日(水)の全国連合会発足式において福岡日本香港協会を代表し、藤村勲副会長が事業報告及び事業計画の発表をいたしました。特に本年度の大きなテーマとしましては「会員の増強」であります。以前理事会の時に、年会費の改正案が提案事項として上がり、まずは会員枠を広げ、個人会費の値下げなど積極的に議論が取り交わされていきました。この活発な意見をもとに年会費の改正などを行い、周知活動を広げたいと考えております。今年は日本香港協会も全国連合会が設立され、大きな変化を図ろうという良い時期でもあるかと思えます。福岡も連合会や他支部との連携をとり、また情報交換しながら、会員の増強と会員の方々にご満足いただけるサービスを提供できるよう日々努力してまいりたいと思えます。



全国連合会交流会にて

第9回香港フォーラム

10月29日(水)～11月1日(土)に全国連合会交流会及び第9回香港フォーラム参加を兼ねて、今年も福岡から総勢12名の視察団が香港を訪問いたしました。ほとんどの方々にはビジネスで香港に何度も渡ったことのある方々ですので、とても香港に詳しく大変心強い思いでした。

また全国連合会交流会の翌日には2008年で第9回を迎える「香港フォーラム」にも参加させていただきました。福岡日本香港協会は30日(木)のみの参加ではありましたが、世界各国から大勢の会員が集まり、年々参加者が増えることは大変喜ばしいことであると思えます。またプログラムの内容もとても充実し、価値のある世界会議であったのではないかと思います。昼食時にはオーストラリアや中国の方々と一緒にテーブルになり名刺交換をさせていただいたのですが、言葉が通じなくても皆さん世界共通の「スマイル」で少しだけでもコミュニケーションをとることができたことは、なんだか嬉しく思いました。

第139回香港福岡県人会との懇親会

30日(木)には香港福岡県人会の方々との懇親会に参加し、今回で139回を迎えました。毎年、香港視察訪問時にこの香港福岡県人会に出席させていただいて

いるのですが、今年は福岡メンバーの12名に加え総勢34名の皆さんと楽しいひと時を過ごすことができました。

香港福岡県人会の緒方玲子会長より開宴のご挨拶をいただき和やかなムードのなか現在の中国・香港経済状況や異国の地で働くことの大変さやご苦労など貴重なお話しを聞く機会に恵まれました。特に緒方会長は、1964年に来港され、香港在住歴44年にもなるそうです(途中、日本に10年ほど帰国されていたそうですが)。現在はPR・コンサルタントなど幅広い業務を受け持つオールラウンド・プロモーションのディレクターとして大活躍されていらっしゃる、今でもたくさんの会場でご自身のご経験談をもとに、中国人との人的ネットワークの方法や商売の仕方など講演活動を精力的に行っているようです。

1964年といえば東京オリンピックが開幕された年であり、ちょうど日本が高度成長期の真っ只中にあったとはいえ、まだまだ国際色がそこまで強くない時代であったと思います。そんな中で香港へ渡り、一言では言い表せないほどのご苦労と、成功を積み重ねられた緒方会長の言葉は大変深く感銘を受けました。県人会の皆様も大変温かく迎えてくださり、日本の思い出に花が咲き、話が尽きることはありませんでした。この香港福岡県人会は年に2回くらい開催されており、毎回新しいメンバーも増え現在では135名の方々も県人会に登録されているとのこと。福岡のみならず他県にも県人会はありますので、それを考えるとそれだけ多くの日本人が香港に在住しているのだと改めて実感いたしました。

懇親会では、昔親交のあった方との思わぬ再会や、実は同じ故郷だったりなど香港にいながらとても身近な国に感じることができ、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。今後も双方の発展に向けて香港との様々な交流を進めてまいりたいと思えます。



香港福岡県人会会長 緒方玲子氏



福岡日本香港協会メンバーと香港福岡県人会の皆さん

YAMAGATA

山形日本香港協会

— 2009年のNHK大河ドラマ —
「天地人」の主演直江兼続とは

山形日本香港協会 副会長 渡辺 晃

NHKの大河ドラマ「篤姫」が好評のようですが、来年は直江兼続の「天地人」に決定しました。「天と地と」というドラマがありましたがこちらは上杉謙信と武田信玄の話。「天地人」は、上杉謙信の養子である景勝の、右腕家老兼続のお話です。「戦国時代、兜に愛の字を掲げて戦う武将がいた」ということで話題になりましたが、それが直江兼続です。

何故山形が地元かというと、上杉家は戦国時代に上杉謙信が越後を治めたあと、景勝の時代に豊臣秀吉から会津120万石へ移封され、その後徳川家康に反抗したために米沢30万石に減封させられたことに起因します。謙信の遺体は漆に塗り固められ、鎧兜を着て、瓶に入れられました。そして国替えとともに大切に持ち運ばれ、米沢に現存するのです。家康の時代に入り戦争など必要なくなると、学問・殖産・都市計画で米沢の基礎を作ったのが兼続です。

信長から謙信へ送られた「上杉本洛中洛外図屏風」と「上杉家文書」の二つの国宝を含み、上杉謙信をはじめとする上杉家のお宝の数々はこのようにして米沢

で見ることができます。篤姫のお墓が話題になっていますが、謙信以降鷹山を含む上杉家代々のお墓は御廟に、兼続のほか上杉家ゆかりの人々は林泉寺に眠っています。

直江兼続とは

1560年、越後上田庄（南魚沼市）の坂戸城下で、坂戸城主・長尾政景の家臣、樋口惣右衛門兼豊の子として生まれた。幼名は与六。政景の妻の仙桃院（謙信の姉）に見込まれ、その子の景勝に仕えた。景勝が謙信の養子になると、ともに春日山城（上越市）に入る。謙信没後の御館の乱で景勝を勝利に導き、上杉家執政に就いた。上杉家重臣・直江信綱の妻であったお船と結婚、直江家を継いだ。主君景勝とともに謙信の教えを守り、義を重んずる治世を行った。秀吉によって景勝が会津に移封されたのに伴い、兼続も米沢城主となる。徳川家康に謀反の疑いをかけられた際に、上洛要求を拒んだ書状「直江状」が有名。景勝が米沢へ減封となった後も上杉家の治世を支え続けた。1619年、60歳で死去。



トリビアの泉で紹介された、直江兼続の説明と愛の兜の映像を見ることができます。

http://video.nifty.com/cs/catalog/video_metadata/catalog_071105039456_1.htm

街は、まるごと、大パーティ!!

www.DiscoverHongKong.com/jpn

ハマム、ミヨク、**香港** 協賛

協力: 香港政府観光局

香港

街の全てがお祭り気分で彩られ、大きな大きなパーティで盛り上がる。それが、冬の香港。ロマンティックも大騒ぎも神聖な気持ちも香港ならではのオトクも、いっぱいにつまんで一斉にはじけだす。この時期の、香港へ。

HONG KONG WinterFest



11/28/2008 — 01/04/2009
香港ウインター・フェスタ

- まばたきも惜しいほどにキラめくイルミネーション、クリスマスツリー、そして聖歌隊が、クリスマス気分をいっぱい盛り上げます。
- 冬のセールは、11月下旬から来年1月25日まで。最大80%オフまで下がるショップも。
- ショッピングモールやレストラン、ホテルで様々なプロモーションを実施。ビジターならではの特典も盛りだくさんです。
- ビクトリア・ハーバーに咲く花火のショーは圧巻。美しく豪華なイベントで、新しい年を迎えましょう。

「2008香港 札幌の物産と観光フェア」と 「北海道商談会in香港2008」の開催について

北海道日本香港協会 事務局

今回は9月に香港で開催されました「2008香港 札幌の物産と観光フェア」と「北海道商談会in香港2008」についてお知らせします。

「2008香港 札幌の物産と観光フェア」

- 日時：2008年9月17日～2008年10月8日
- 会場：香港 シティ・スーパー 4店舗
- 主催：アジアにおける札幌の物産と観光フェア実行委員会
(構成団体～札幌市、札幌物産協会、札幌商工会議所、札幌観光協会、さっぽろ産業振興財団、札幌市国際観光誘致事業実行委員会)
- 協賛・協力：北海道日本香港協会、香港貿易發展局、北洋銀行ほか

日本食品の輸出先No.1の香港において、札幌の物産と観光を広く紹介し、販路開拓と観光PRを図るとともに、相互理解と友好親善を深めることを目的に開催されました。

期間中、シティ・スーパー各店において、札幌市内企業を中心に道内企業26社、165種類の食品を催事販売しました。

中でも実演販売を行ったラーメンやコロッケ、シフォンケーキなどが人気を呼んでいました。併せて、「ミスさっぽろ」による「札幌スイーツ」の試食イベントを開催するなど、札幌の観光、魅力をPRしました。



「北海道商談会in香港2008」

- 日時：2008年9月23日
- 会場：ホテル日航香港
- 主催：貿易研修センター、経済産業省北海道経済産業局、JETRO北海道貿易情報センター、アジアにおける札幌の物産と観光フェア実行委員会（事務局～札幌市）、東アジア・マーケットリサーチ事業実行委員会（事務局～小樽市）
- 共催：香港貿易發展局
- 後援：北海道日本香港協会
- 特別協賛：ホクレン農業協同組合連合会、ホクレン通商

北海道内企業22社が商談会に参加し、香港のバイヤー等と商談を行いました。

クリーンなイメージに代表される豊かな大地と海に囲まれた北海道で生産加工した、安全でおいしい食料品、海産物、飲料などが集まりました。

北海道の新鮮な原材料によってつくられた洋菓子、チーズ、豆菓子やいくら、ホタテ、ウニ、秋鮭、シシャモなどの海産物、日本酒、ワインなどが人気を集めていました。

また、前日には、札幌、小樽の魅力を香港の現地食品バイヤーをはじめ、旅行業者、ホテル関係者等に広く紹介するため、香港日本人倶楽部にて「北海道の夕べ」が行われ、酒樽の鏡開きで幕を開け、ワインや日本酒、各種チーズ、たらば・ズワイ・花咲蟹やジンギスカンなどが振舞われました。

北海道日本香港協会では、今後も道産品の香港販路拡大、ビジネスサポートを関係機関と連携しながら行っていく予定です。



宮城日本香港協会 事務局 武田 功

**香港宮城県人会の安部副会長来仙
～香港「日本食」事情を語る～**

去る8月6日(水)香港宮城県人会の副会長で、香港で日本料理店「あげ半」を経営する安部隆孝氏が来仙され、会長以下当協会会員との懇談会を開催しました。



安部氏を囲んで懇親会

席上、安部氏は2007年の香港飲食業界における日本食の状況を総括され、「ブームの持つ諸刃の剣ともいえる一過性を通り越して、もはや日本食は香港の食文化の中で確固たる地位を持つに至っている。数々の日本食レストランが新規開店し、まさに百花繚乱の趣があり、日本食を作る料理人の奪い合いまで起こっている」と。また、「かつては『スシ』『サシミ』『テンプラ』『ラーメン』一辺倒だったのが、焼き肉やお好み焼き、どんぶり、手打ちうどんとそのレンジを広げつつある。いわば香港人の嗜好開拓とそのテストマーケティングを日本食レストランが担っている、と言っても過言ではない」とし、トレンドが高級化、多様化、チェーン化と三つに集約されると断言されました。

和気藹々の中にも未来に夢を繋ぐ有意義な懇談会となりました。

広東語教室で懇親会を開催

6月から始まりました広東語教室も順調に進んでおります。8月の暑い季節を乗り越え、9月22日(月)、連休の間ではありましたが、香港からの留学生を来賓に、香港人経営のお店・幸福楼にて、本場の広東料理を味わいました。懇親会では倣った広東語で自己紹介をしました。「你好。我姓…。名叫…。請叫我……啦。請多多指教。」



初めての懇親会 (於幸福楼)

料理教室を開催

去る8月19日(火)、東北電力グリーンプラザを会場に料理教室を開催しました。25名の参加者があり、講師は仙台国際ホテル中国料理「翠林」の料理長さんです。今日のメニューは「乾焼蝦仁」(芝海老のチリソース)と「素菜炒麵」(野菜いっぱい餡掛けヤキソバ)でした。

普段何気なく作っている、又は海老を入れればすぐできるチリソースなどで馴染みのある家庭料理ですが、今日は本格的な中国料理の作り方を学びました。家庭とお店の味の一番の違いは「薬味」だそうです。



大坪事務局長も駆けつけ挨拶、いよいよ試食です。

秋の芋煮会を開催

去る10月11日(土)、澄み渡る青空の下、名取川の辺庭庭荘の前庭にて、秋の芋煮会を開催しました。44名の参加者があり、ワンちゃんも大喜び、美味しい秋の味覚を楽しむ1日となりました。



わんちゃんも参加しての楽しい芋煮会

「実践グローバルビジネス講座」を後援

去る7月16日(水)、宮城県とJETRO仙台貿易情報センターの共催による「実践グローバルビジネス講座」が開催され、香港、マカオの事業者も講演することから、本協会としても後援することとし、会員に広く参加を呼びかけさせていただきました。

沖縄日本香港協会特別講演会

～執生（ちゃぶさん）が香港の強さ～

沖縄日本香港協会 事務局

沖縄日本香港協会は九月二五日（木）十三時三十分より、おきでんふれあいホールにおいて、香港をゲートウェイとして中国及び東アジアへの輸出戦略を見据え、香港市場へのステップアップとなる「香港・中国から見た沖縄」講師/香港貿易発展局 日本首席代表の古田茂美氏ならびに、「香港、華人とのネットワークにおける沖縄」講師/龍谷大学 国際文化学部の濱下武志氏を講師に迎え、特別講演会を開催した。



“執生”の功を説く古田首席代表

まず、香港貿易発展局 日本首席代表の古田茂美氏の講演では、香港の経済発展を分析するとともに、歴史面・文化面での沖縄との共通点も指摘し、沖縄の経済発展には歴史的にも地理的にも近いアジアとの強固な関係を生かすことが必要と強調した。

また、香港人の気質として「香港の強さは執生（ちゃぶさん）」。「臨機応変さ、状況に応じて適切に動くことが競争力の源泉であると説明した。

香港返還当初は経済の自由が制限される「香港の中国化」が懸念されていたが、実際には、人、社会関係、金融、制度の四資本が現在充実した香港をモデルに「中国の香港化」が進んでいることを指摘した。

他国による植民地や他国からの離反など、沖縄と共通した歴史を持つ小規模な都市が、優れた経済戦略を背景にアジアで高い地位を確立したとし「沖縄もサービス産業の振興やリゾート開発、IT、金融等国际性



華人ネットワークについて熱弁を振るう濱下先生

を有することにより日本経済の対大陸市場ゲートウェイ」としての可能性があり、期待したいと述べた。

続いて、龍谷大学 国際文化学部の濱下武志氏は香港と沖縄に共通する人的地域資源として海洋交易、長寿社会、歴史的な一国二制度（香港と中国、沖縄と日本）を挙げた。

今後の課題として①国際関係から地域関係へ・アジアの歴史的秩序と華人ネットワーク ②制度・組織・市場の時代から多層・多軸・非制度（非組織）ネットワークの時代へ ③沿岸都市ネットワークの形成と環シナ海ネットワーク構想・香港と沖縄の位置と役割 ④新たな地域コミュニティ形成・人と人の繋がり地域社会の充足性の四項目を挙げた。

引き続き、質疑応答が行われ活発な意見が交わされ成功裏に終了した。



熱心に聴き入る参加者

飛龍 No.60 2008年12月発行

(禁無断転載)

日本香港協会 広報委員会

香港貿易発展局東京事務所内

〒102-0083 東京都千代田区麹町3-4 トラスト麹町ビル6階
電話(03)5210-5870 FAX(03)5210-5860

関西日本香港協会

〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内 電話(06)4705-7030

中京日本香港協会

香港貿易発展局大阪事務所気付
〒541-0052 大阪市中央区安土町2-3-13 大阪国際ビルディング10階
香港貿易発展局内 電話(06)4705-7030

福岡日本香港協会

〒810-0013 福岡市中央区大宮2-3-7 協同組合福岡情報ビジネス内
電話(092)534-6331

山形日本香港協会

〒990-2432 山形市荒瀬町1丁目14番21号
(株)日本不動産コンサルティング内 電話(023)633-2110

北海道日本香港協会

〒060-8661 札幌市中央区大通西3-11 北洋銀行国際部内
電話(011)261-4288 FAX(011)232-6921

宮城日本香港協会

〒980-0811 仙台市青葉区一番町3-7-23 明治安田生命仙台一番町ビル3階
(株)JTB東北 交流文化事業部内
電話(022)212-5552 FAX(022)212-5556

沖縄日本香港協会

〒900-0033 沖縄県那覇市久米2-2-10 那覇商工会議所内
電話(098)868-3758 FAX(098)866-9834

URL <http://www.jhks.gr.jp>

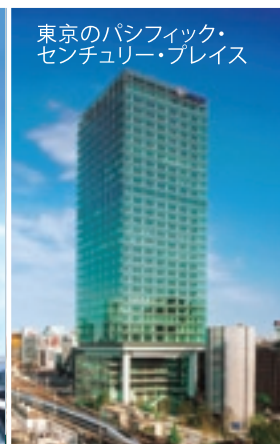


花園から望む羊蹄山の風景

パシフィック・センチュリー・グループによる ワールドクラスディベロップメント



フォスター & パートナーによる
香港Bel-Air No.8



東京のパシフィック・
センチュリー・プレイス



北京のパシフィック・
センチュリー・プレイス



タイ・ブーケットにおける
タイムアンビーチプロジェクト



ゴー・ヒル・28号
ザ・ビーク香港



Pacific Century
Premium Developments
盈科大衍地產發展

Hong Kong (852) 2882 0388 www.pcpd.com